

平塚の石仏めぐり

7. 岡崎（西部）編



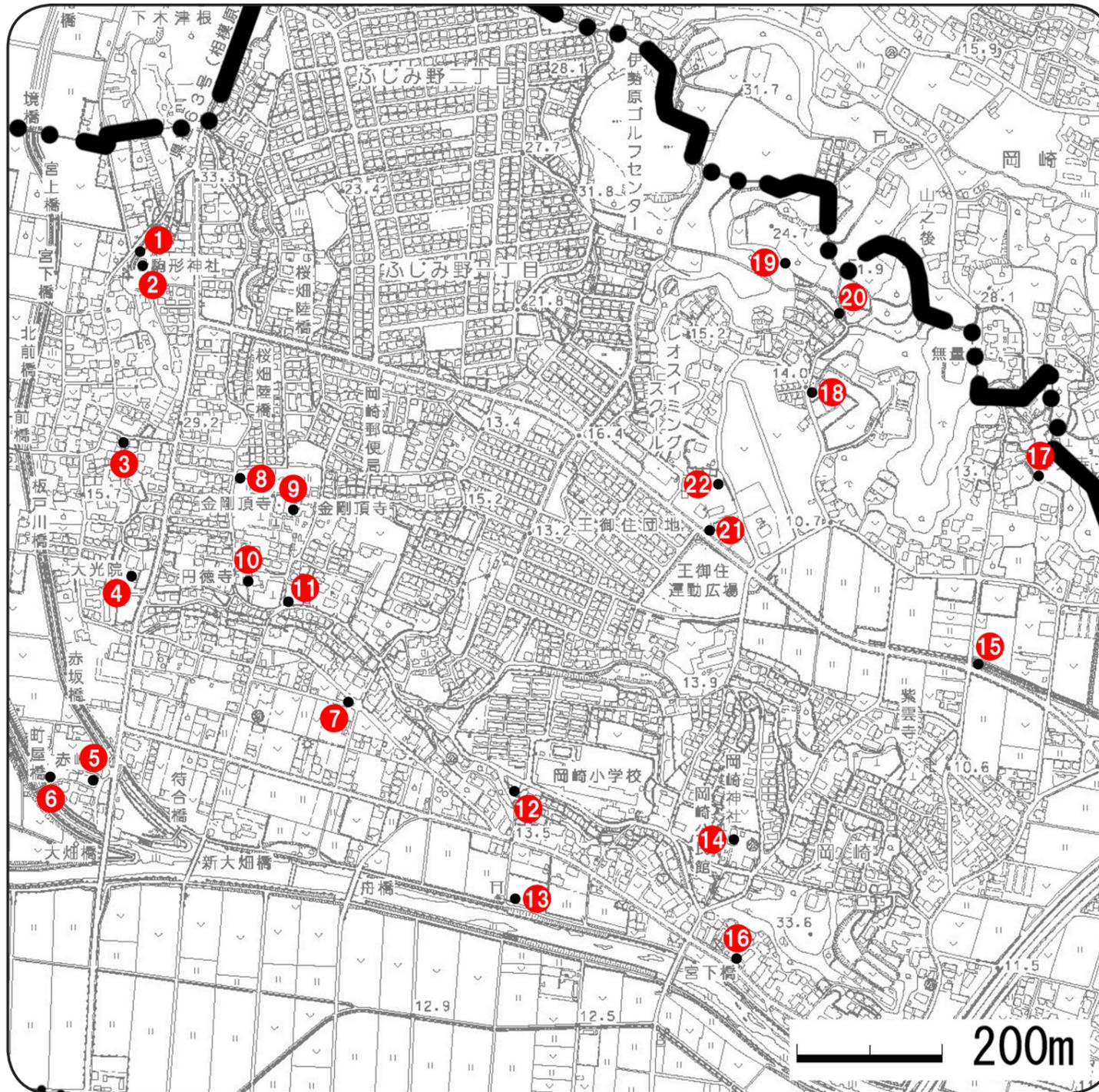
雨乞地藏尊：円徳寺

岡崎西部（丸島・大畑・西海地・入山瀬）の石仏

岡崎西部の丸島、大畑、西海地、入山瀬の石仏を紹介します。天保12年刊『新編相模國風土記稿』による各村の戸数は、丸島村54、大畑村58、西海地村28、上・下入山瀬村23戸でした。

西海地にある岡崎神社は、丸島を除く平塚市岡崎の鎮守です。旧称山王社で、縁起によれば大同2年(807)に創立、明治維新後に岡崎日吉神社と改称されました。明治42年に大畑の八坂神社、西海地の神明社、入山瀬の城山神社など各旧村の鎮守を合祀し、岡崎神社と改称されました。例祭は10月第二日曜日です。丸島の鎮守は駒形神社で、4月第二日曜日が例祭です。丸島には浮島稲荷神社も祀られています。寺院は丸島に大光院（真言宗）、大畑に金剛頂寺（真言宗）と円徳寺（浄土宗）があります。

この地区では岡崎東部と同様に道祖神と地蔵が数多く見られます。入山瀬自治会館脇には路傍の各所から多数の石造物が集められていて、このうち7基が道祖神です。これは市内で一か所に見られる道祖神の最多数で、造立年代によって双体道祖神の像容がどのように変化したのかをうかがうことができます。その他、地蔵は円徳寺の雨乞地蔵に伴う伝承が注目されます。庚申塔などに併記された道標の数も多く、「田村道」「十日市場道」などの銘が刻まれています。大光院は光明真言塔や地蔵など石造物の見どころが多いお寺です。



岡崎（西部）の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	駒形神社前	岡崎 2653-1	地神塔
2	駒形神社	岡崎 2657	石坂供養塔、狛犬、手水石、神名塔、道祖神、庚申塔他
3	丸島路傍	岡崎 2818	石祠
4	大光院	岡崎 2842	石坂供養塔、地蔵、光明真言塔、廻国塔他
5	丸島路傍	岡崎 2905	道祖神
6	丸島路傍	岡崎 2906	石祠
7	大畑路傍	岡崎 3005	道祖神
8	御所ヶ谷公園脇	岡崎 3152 西	馬頭観音
9	金剛頂寺	岡崎 3152	敷石供養塔、地蔵、観音、他
10	円徳寺	岡崎 3156	地蔵、六地蔵、名号塔他
11	大畑路傍	岡崎 3162 西	道祖神
12	大畑路傍	岡崎 3469	神名塔
13	大畑路傍	岡崎 3522 南	道祖神
14	岡崎神社	岡崎 3650	手水石、庚申塔手水石、石坂供養塔、馬頭観音、地蔵他
15	西海地路傍	岡崎 3719 南	庚申塔道標、道標、道祖神
16	西海地路傍	岡崎 4059	庚申塔道標、巡拝塔道標、百万遍供養塔、道祖神
17	西海地路傍	岡崎 5362 東	疱瘡神
18	入山瀬自治会館前	岡崎 5514	道祖神多数、庚申塔、馬頭観音、石祠
19	入山瀬路傍	岡崎 5762	地蔵
20	入山瀬三叉路	岡崎 5765	記念碑道標
21	入山瀬路傍	岡崎 5801	稲荷
22	入山瀬路傍	岡崎 5818	石祠

※当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成26年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け
 石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。
 また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

石仏豆知識5. 岡崎の道祖神

道祖神は、集落の入り口にたたずみ、疫病神などの侵入を防いでいます。五輪塔の残片を伴うことが多く、時には庚申塔などが一緒に祀られていることもあります。岡崎では現在、道祖神の祭場が16か所あり、新旧26基の道祖神をお祀りしています。内訳は、双体像17基、文字碑7基、石祠2基となります。なお1か所は、五輪塔片だけが祀られた祭場です。

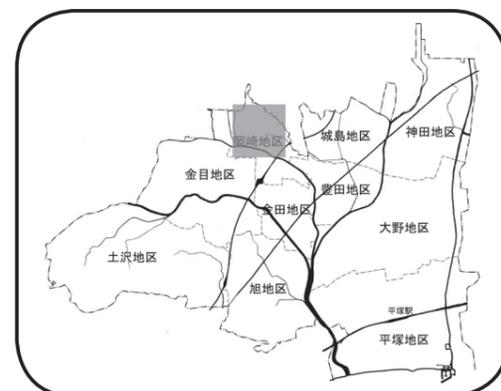
五輪塔片は、道祖神の原点といえます。五輪塔は中世の墓石でした。近世には墓石としての伝承は失われました、霊性を持つ石として祀られるようになったと考えられます。その後、双体像や文字碑が建てられるようになってからも、その場に置かれ一緒に集落の入り口を守ってきました。

双体像には、剃髪し男女の区別のない僧形と、冠や鬘などで男女の見分けがつく神像があります。僧形の道祖神は初期のもので、時代が下るにしたがって神像が変わってきました。最近建てられた道祖神では、手をつないだり、肩をだきあったりした双体像が主流になっています。

文字碑は、「道祖神」などの文字だけを刻んだ道祖神です。岡崎では、自然石を使ったものがほとんどです。なお、矢崎には「道之神」という、市内で唯一の神名を刻んだ碑があります。

石祠の道祖神は、鈴川の南側、別北の路傍に新旧2基が祀られています。古いほうの石祠には、「道祖神」と刻んだ石板が納められています。

どんど焼きは、道祖神の祭りとして市内各地で行われています。道祖神は地域の絆づくりへの役割が期待されています。



平塚の石仏めぐり (7. 岡崎（西部）編)
 発行日：令和3年6月
 編集：石仏を調べる会
 発行：平塚市博物館
 住所：神奈川県平塚市浅間町12-41
 電話：0463-33-5111

丸島路傍の地神塔 (地図番号①)

自然石に「地神塔」「村中」と彫られた塔は、慶応2年(1866)に丸島村の人々により造立され、平成6年、旧公民館から現在地へ移設されました。丸島では、地神塔に関係のある地神講を春秋の社日に5つの講で行なっていました。地神講の夜、当番の家に集まり、床の間に掛けられた掛け軸に豊作を祈り、収穫を感謝した後、飲食を楽しみながら親睦を深めました。講は減少し平成25年まで続きました。



地神塔(慶応2年)

駒形神社の石仏 (地図番号②)

丸島は岡崎郷に属さず駒形神社を鎮守としてお祀りしていました。神社には永禄、天正年間の棟札が残されていて市の有形文化財に指定されています。また神社の石段下には弁天様を祀る弁天池があり、日照りでも干上がることはないと言われています。



石坂供養塔(安永4年)

石坂供養塔 兜巾型で安永4年(1775)に建てられ参道入口の石段右側にあります。

庚申塔道標 享和2年(1802)に建てられた道標を兼ねた庚申塔で、正面に「庚申塔」、左右に「右大山」「左痢病神」と道標名があります。



庚申塔道標(享和2年)

「痢病神」とは伊勢原市坪ノ内「養国院」の境内に祀られている赤痢や疫痢よけの神のことで、かつて岡崎では田植えが一段落した7月9日に真田の天王さん(真田神社)へお参りし、その後天徳寺の与一堂、坪ノ内の痢病神へ向かう人が多かったようです。庚申塔の元の設置場所はわかりません。

他に、左右裏面に三猿が彫られた年代不詳の石祠型庚申塔や道祖神などいくつかの石仏が並んでいます。

金剛頂寺の聖観音 (地図番号⑨)

如意山密蔵院と言い東寺真言宗の寺院です。境内が整備され、六地藏や寺号塔など新しい石仏があります。聖観音坐像は山門をくぐって右手にあります。蓮華座を含めて高さ56cmと小ぶりですが、端正なお姿をしています。



聖観音坐像(年代不詳)

下の塔身は、明治36年(1903)建立です。石材が異なることから別々につくられたものと思われる。

大光院の石仏 (地図番号④)

真言宗のお寺で、本尊は聖観音です。富士山や大山の眺めが素晴らしい場所にたくさんの石造物が安置されています。

地藏万霊塔 優しい眼差しの地藏は、文化10年(1813)に造立され、作り直された基礎正面に「三界万霊」と彫られています。



地藏万霊塔(文化10年)

生死を繰り返しながら輪廻する世界に生きる全ての霊をここに宿らせ、お寺を訪ねる人々から供養して頂くことを願って、本堂前の広場中央に地藏が祀られています。

葬儀の際、現在も参列者は地藏を中心に反時計回りに3度回ります。

光明真言塔 文政12年(1829)造立の塔の上部円形部分に光明真言が梵字で円の下から左回りに、中央に胎蔵界大日如来真言が彫られています。

光明真言(文政12年)

光明真言は密教の神秘性を保つために翻訳しないで二十三の梵字からできています。光明真言を唱え大日如来に智慧と慈悲を祈ります。



光明真言塔(文政12年)

下に「南無大師遍照金剛」。密教を広めた真言宗開祖の弘法大師に帰依しますとの真言宗の根幹の宝号です。

この塔の左5基目にも、文政10年(1827)造立の光明真言供養塔があります。

廻国塔 「廻國供養碑」と彫られた塔の各面の銘文から、杉山夫婦が大乗妙典と呼ばれる法華経を66部写経し、江戸時代まで66か国に分かれていた日本各地の霊場に法華経を一部ずつ納め供養したと読み取れます。



廻国塔(文化3年)

夫婦は交通・宿泊事情が厳しい時代、何年もかけて陸奥(東北)から薩摩(鹿児島)までを訪ね歩いた難行の末、その記念として、この塔を文化3年(1806)に建てています。

円徳寺の雨乞地藏 (地図番号⑩)

ここ大畑では、戦前まで、干ばつの時、村人が総出で円徳寺門前の「雨乞地藏尊」を台の上にしっかりと乗せ、住職がお経を唱えながら、行列をつくって村内を練り歩いた後、地藏を鈴川に沈めました。



雨乞地藏(年代不詳)

土手では雨が降るまで毎夜念仏が続けられました。雨が降ると地藏を鈴川から引き揚げ、円徳寺でお礼の法要が行われ、地藏は元の位置に安置されました。

岡崎神社の石仏 (地図番号⑭)

岡崎神社は丸島を除いた平塚市岡崎全体の鎮守です。境内には鳥居、狛犬、手水石、地藏、奉納塔などのたくさんの石造物が安置されています。

手水石 本殿左側の鳥居を入った右に手水石、正面に「元禄十」「奉造立為庚申供養」と下に「大畑村」と7名の氏名などが彫られています。元禄10年(1697)に大畑村の庚申講の仲間7人が庚申供養のため手水石を造立したものです。



手水石(元禄10年)

中央の文字の左右に庚申塔によく彫られている猿像らしい跡があります。庚申供養の手水石は珍しいです。

地藏 小屋内に優しい顔のお地藏さん、造立年は不明です。平成19年作の添碑に「ほほえみ地藏尊」として、ほほえみをうかべ何百年の間村人を守り、子供の成長を見守るお地藏さんと紹介。昔から地域の人々から慕われてきました。



ほほえみ地藏(年代不詳)

現在も7月24日にお地藏さんの前で西海地の婦人方による念仏供養が行われています。

西海地路傍の石仏 (地図番号⑯)

岡崎4059の路傍には写真のように4基の石仏が祀られています。右側より道標を兼ねた自然石型の庚申塔(年代不詳)です。左右の側面に東田村、西十日市場と彫られています。

2番目は自然石を櫛型に彫った双体道祖神です。この種の手彫りで仲睦まじく彫られた双体道祖神は中原上宿に祀られている昭和57年(1982)造立が初出で、市内に数基あります。更新前の道祖神は宮下橋脇に高さ40cm程の文字碑に「山王臺、宮下」の小字名が彫ってありました。平成4年(1992)に更新された双体道祖神には字名に加え寄贈者名が彫られ、像容はお互いの足を合わせた珍しい姿です。

3番目は上部が五輪塔の一部、下部は宝篋印塔の基礎を混成したものです。

4番目は西国・秩父・坂東の百観音霊場の巡拝と百万遍の念仏行の偉業を成就した供養塔です。道標も兼ね3方向の行き先を記し、安永2年(1773)造立で百観音巡拝塔として市内では初期のものです。



西海地路傍の石仏群

大畑路傍の道祖神 (地図番号⑬)

大畑稲荷坂の鈴川際の道祖神は、新旧2基が静かに祀られています。古い道祖神は、明和9年(1772)の年銘が刻まれています。長年、地域を見守ってきたという印象を受ける烏帽子を被った双体の像容です。新しい道祖神は、平成10年(1998)の造立で、頬を寄せ合い寄り添う仲睦まじい姿で、好感の持てる像容です。



新旧道祖神(明和9年、平成10年)

新旧道祖神の前面には、多数の五輪石も祀られています。

入山瀬自治会館前の石仏 (地図番号⑱)

江戸時代は上下二村に分かれていましたが、現在は入山瀬自治会としてひとつにまとまっています。自治会館はかつては村持ちの地藏堂だったところで、江戸時代の作とされる木造地藏菩薩立像が安置されています。

自治会館脇のお堂には12基の石仏があります。道路改修などに伴い、先人の残した石造物が行き場を失うことを心配した地域の方々が、路傍から集めたそうです。今では自治会で建てたお堂に納められています。亀裂が入り、風化や摩滅しているものがほとんどですが、風雨にさらされる心配もなくなり末永く守られていくことでしょう。

石仏の内訳は道祖神8基と馬頭観音2基、庚申塔1基、石祠1基、合わせて12基となります。

道祖神のうち7基は双体像です。明和7年(1770)、寛政3年(1791)、文化2年(1805)、弘化2年(1845)のほか年代不詳3基です。傷みが激しく像容がわかりにくくなっていますが、かすかにほほえんだ表情がうかがわれるものもあります。もう1基は安政6年(1859)の文字碑です。

馬頭観音は、文政13年(1830)の刻像と宝暦10年(1760)の文字塔です。馬頭観音像は痛みが少なく、瞑目して静かに祈る姿を示しています。

庚申塔は、明和6年(1796)の青面金剛像です。上の二手で日月を支え、中の二手は合掌し、下の二手で弓矢を持っています。下には、向かって左から見ざる、聞かざる、言わざるの3猿が彫られています。傷みが進んでいるのが惜しまれます。

石祠は万延2年(1821)の建立です。「氏子中」とあるだけで、何を祀ったものか不明です。



入山瀬自治会館の石仏群